

採点欄

令和五年度入学試験
国語解答紙(その1)

問一	ア	ア 縮 イ 不謹慎 ウ 打開 エ 親身
	マイナス 何か人間心に深く突き立って痛みを与え傷付ける意味。	
問二	(1)	プラス 何か人間心に深い感動や共感を与え感銘を残す意味。
	(2)	具体的な物、具体的な
問三	身体的な物、具体的な	
問四		身体性とともにある「感覚・感性」は生物としてのヒトのすべてのことの原点であるため、言語表現は大多数の人が「共有・共感」できるものとしての「身体性」を失わないで欲しい、ということ。
問五		「堂々めぐり」とは動かない神社や寺の建物の周りを人間が歩き回ることから、同じ内容が繰り返され進展しないこと、という語義に転じたが、「メリーゴーラウンド」は台そのものの回転によって木馬が上下する乗り物であって、木馬が回転しているわけではない。この回転する主体のずれを強く感じているため。
問六		「書きことば」はゆっくり、繰り返し読んでその意味内容を入念に読み解くことができ、「話しことば」は話すそばから消えていくので入念に意味内容を検討するには向かないが、前者も後者と同様入念に扱われなくなり、粗雑な表現が横行するようになったこと。
問七		言語表現は、必ずしも「身体性」や「感覚・感性」と結びつかなくてもよい、と私は考える。なぜなら、一つの言葉は多くの場合複数の意味を持ち、それらのすべてが人間の「身体」や「感覚・感性」と結びつけることで、共有できる言葉の意味として納得のいくものとは限らないからだ。また、一つの言葉が「皮肉」のように正反対の意味を持つ場合もある。言葉は誤用なども含めて使われているうちに「身体性」や「感覚・感性」などに関係のない意味を獲得していくのだと考える。

氏名

受験番号

合計点

採点欄

令和五年度入学試験

国語 解答紙(その2)

問一		問二		問三		問四		問五		問六		問一		問二		問三		問四		問五																			
① 源氏の宮		② 狭衣中将		③ 源氏の宮		(1) 完了の助動詞		未然形		(2) 思い悩みましたならば		(1) 狭衣中将の、源氏の宮に対して強く心を惹かれるが表情に出さないように我慢して何でもないうように振舞っている態度。		(2) 薄い単衣を着て絵を眺めている源氏の、似ている者のないほど美しい姿と間近に接し、つい見とれて胸が高鳴っているのを知られたくなかったから。		幼い頃から源氏の宮に恋心を抱き、誰にも気付かれないうまま長い年月が経ったが、今も変わらずお慕いする気持ちを抱いているとわかってほしいという思い。		狭衣中将が、自分の恋の告白に源氏の宮が恐ろしい夢を見たかのように震え、まったく見知らぬ人から告白されたように怖がっていることに対して恨み言を言っている。		自分は激情に駆られた見苦しい行動はしないので源氏の宮も突然態度を変えて自分を疎んじるような、世の人に怪しまれる態度を取らないでほしいと中将は考えたから。		① たとい(ひ)		② のみ		③ あえ(へ)て		④ もとより		読書は一つの技芸であり、身に付けた見識は自らの人生の助けとなるものだ		薄伎の身に在るに如かず		ア 世間の人は愚かな人も利口な人もみな、多くの人を知り見聞を広めることを求めているのに、進んで読書をしないうこと。		イ 腹一杯食べたいのに食事の準備をせず、暖かさを欲しても衣服を作らないこと。		読書をする人は書物の中で太古以来の人間の様々な営みや天地鬼神も隠しきれない物事の真理を知っているが、それは世の人がみな求めることであるので、読書は千萬の金銭より価値があり、自分の人生の助けとなるものだから。	

氏名

受験番号

合計点